原子力災害からの福島復興の進捗について

平成29年3月 原子力災害対策本部 原子力被災者生活支援チーム

避難指示の解除と帰還に向けた取組①

平成27年6月12日閣議決定「原子力災害からの福島復興の加速に向けて」改訂: 避難指示解除準備区域・居住制限区域について、 遅くとも事故から6年後(29年3月)までに避難指示を解除できるよう、環境整備を加速

1) 田村市: 平成26年4月1日 避難指示解除準備区域を解除

転入等も含め人口の61%、世帯の67%※の方が居住 < 20km圏内> (平成29年1月末時点)。

※%は田村市の住民基本台帳ベースの人口 世帯に対する割合

(2) 楢葉町:平成27年9月5日 避難指示解除準備区域を解除

- 全住民の方が避難した自治体としては初めての避難指示解除。
- 人口の11%、世帯の16%*の方が帰環(平成29年2月3日時点)。
- ※ %は平成27年9月4日時点における楢葉町の住民基本台帳ベースの人口 世帯に対する割合
- (3) 葛尾村: 平成28年6月12日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

川内村: <mark>平成28年6月14日</mark> 避難指示解除準備区域を<mark>解除</mark> (平成26年10月1日に、一部地域で避難指示解除実施するととに居住制限区域を避難指示解除準備区域に見直し)

南相馬市:平成28年7月12日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(いずれも平成28年5月31日 第40回原子力災害対策本部会議で決定)

(4) 飯舘村: 平成29年3月31日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(平成28年6月17日 第41回原子力災害対策本部会議で決定)

- 平成28年7月1日から帰村の準備のための長期の宿泊を開始。
- (5)川俣町: 平成29年3月31日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(平成28年10月28日 第43回原子力災害対策本部会議で決定)

- 平成27年8月31日から避難指示解除まで準備宿泊を実施。
- (6) 浪江町:平成29年3月31日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

富岡町:平成29年4月1日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

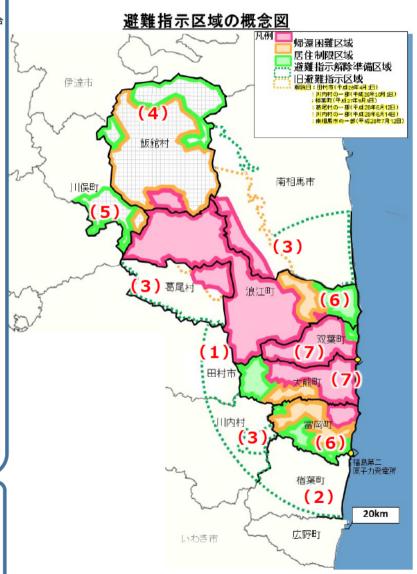
本日決定

(平成29年3月10日 第45回原子力災害対策本部会議で決定)

- 富岡町は平成28年9月17日から、浪江町は平成28年11月1日から避難指示解除まで準備宿泊を実施 ※「準備宿泊」は、避難指示の解除後、ふるさとの生活を円滑に再開するための準備作業を進めわすくするため、本来、避難指示区域内で禁止されている自宅等での宿泊を特別的に可能にする制度。
- 避難指示の解除後も政府一丸となり復興に向けた施策を展開。

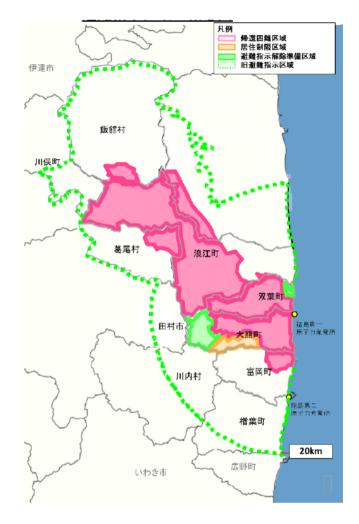
(7) 大熊町・双葉町 (町の96%が帰還困難区域(人口ベース))

- ・ 大熊町:平成28年8月11日~16日に特例宿泊を初めて実施。秋彼岸(平成28年9月21日~9月25 日)においても実施。
- 双葉町:平成28年12月20日に「復興まちづくり計画(第二次)」を公表。



避難指示の解除と帰還に向けた取組②





平成29年4月時点

避難指示区域 からの避難対象者数	約8.1万人	区域設定時から約3年8か月	約2.4万人(約5.7万人減)
避難指示区域の面積	約1,150km		約370k㎡(約780k㎡減)

(注)避難指示区域からの避難者数は、市町村からの聞き取った情報(それぞれ、平成25年8月8日時点、平成29年2月1日時点の住民登録数)を基に、原子力被災者生活支援 , チームが集計。

廃炉対策の進捗と今後の見通し



汚染水対策の進捗と今後の見通し

これまでの取組と成果 今後の見通し (~2017年1月) 凍土壁 (陸側遮水壁) 閉合 サブドレン稼働 敷地舗装92%完了 地下水バイパス稼働 建屋への地下水流入量を 【2016.3 凍結開始】 [2015.9~] 建屋への 100㎡/日未満に抑制 [2014.5~] 【2017.1時点】 【2016.10 海側凍結完了】 2017年1月までに 地下水流入量 【2017.3 山側未凍結1箇所を除き凍 2017年1月までに排水量:約25万トン 排水量:約27万% づ 結中] け 4m盤での汲み上げ量:凍結開始前の ない 日量約400トンから約140トンまで減 約400㎡/日 約300㎡/日 約200㎡/日 サブドレンの強化 (2011.6~2014.5) (2014.5~2015.9) (2015.9~2017.1) [2016.10~] 浄化設備の2系列化・汲み 上げ井の復旧、増強、タンクの増設 周辺海域の 海側遮水壁閉合 タンク増設計画 溶接型タンクの増設 水ガラスによる地盤改良 放射性物質濃度 新規増設やフランジ型タンクのリプレース等により約54万トンを増設し、 【2017.1時点】 [2015.10] [2014.3] 2020年までに約137万トンの溶接型タンクを設置予定。 ※南放水口付近の これに伴い地下水ドレンからの 溶接型タンクは約85万ト これに伴いウェルポイントからの らさ セシウム137の値 汲み上げを開始【2013.8】 汲み上げを開始【2015.11】 (総容量約98万5の約9割) フランジ型タンクの処理 な **二重**堰の設置などの漏えい防止策や側板フラン 検出限界値 約1万Bq/L ジ部への防水シール材等による予防保全策、1 (0.7Bq/L)未満 (2011.3) 日4回のパトロール等を実施し、2018年まで使 (月平均) (2017.1) 用を継続。 トレンチ内汚染水の 敷地境界の タンク内汚染水の処理が概ね完了 ALPS処理水の長期的取扱いの検討 追加的な 【2015.5】→累計約76万 m³ 処理が全て完了 【2016.9多核種除去設備等処理水の 取 実効線量 【2015.12】→累計約1万m3 ŋ 取扱いに関する小委員会設置】 更なるリスク低減の観点から、ALPS処理を継続 除 約11mSv/年 1mSv/年未満 (2012.3) (2016.3達成) 復水器内の高濃度汚染水処理 建屋内滞留水の放射性物質 1号機タービン建屋を循環注水 建屋内滞留水の処 量を半減(2014年度末比) 建屋内滞留水処理 1号機抜き取り開始 ラインから切り離し【2016.3】 理完了【2020年内】 【2018年度内】 [2016.10] <その他>

○ K排水路の港湾内への付け替え【2016.3】

- ○一般作業服着用可能エリアの拡大【2016.3】
- ○廃炉・汚染水対策に従事している作業チームへの感謝状授与【2016.4】
- ○廃棄物の処理処分に関する基本的な考え方のとりまとめ 【2017年度内】